

令和6年度 上尾市立西小学校 学校評価書

★自己評価の評価基準 A：できている B：どちらかと言えばできている C：どちらかと言えばできていない D：できていない

★学校関係者評価の評価基準 ☆自己評価と同じ評価の場合 → 自己評価は妥当であると判断 ☆自己評価と異なる評価の場合 → 学校関係者評価委員会としての見方を示す

領域	自己評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価基準	主な方策	自己評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
I 教育目標の具現化・円滑な学校運営	1	<p>■西小は、学校教育目標（素直で明るくかしこい西小っ子の育成）や目指す学校像（魅力ある 信頼される学校）の具現化に向かって、学校（学年・学級）運営や学習指導、その他の教育活動の工夫改善に取り組んでいる。</p>	<p>◆安易な従前主義を排し、小さなことでも課題解決と改善を図るための検討や見直し、工夫に、熱意誠意・創意をもって、真摯に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポストコロナ禍における教育活動の進化と深化 ・学校における働き方改革の推進を踏まえた上での価値ある取組の精選、実施。 	B	<p>○感染症の蔓延に留意しつつ、各分掌主任、学年主任を中心に教育活動の計画を吟味し、諸行事諸活動を充実させながら実施することができた。</p> <p>○学年・分掌での情報共有、毎日のグループウェアでの指示伝達連絡事項の確認により、共通行動、共通指導等、チーム力を発揮しやすい態勢をつくれた。</p> <p>○「西小ハローウィーク」「PRAISE週間」など、児童の自己有用感を高めるための取組を新規に実施し、教員が意識して児童を認め、励ますことが活発に行えた。</p> <p>◆教師こそ最高の教育環境であることを自覚し、自己有用感のさらなる醸成のため、どの児童も良い点が認められ、ほめられる場面を教師が意図的に設定していく必要がある。</p> <p>◆学校全体の教師がすべての学年の児童を育てるという考えをもって教育に当たっていくことが大切である。</p>	B	<p>○今後も、より充実させていくための方策の工夫改善に努めてほしい。</p> <p>○先生方の働き方改革とのバランスが難しいが、行事のある程度の拡大についても、協議できたらと考える。</p>
	2	<p>■西小は、教職員それぞれが能力を発揮し各分掌（役割）や各学年が連携協力して質の高い学校づくりを目指すために行動している。</p>	<p>◆教職員それぞれがチームワーク行動を発揮して、組織力の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア段階に応じたチームワーク行動の重点の実践 ・毎日のグループウェアでの指示伝達・連絡事項の確認、情報共有、共通行動 ・一部教科担任制の実施や深い学びを追究する教材研究、制作教材の共有 ・いじめ、問題行動等へのチームでの対応 	B	<p>◆教師こそ最高の教育環境であることを自覚し、自己有用感のさらなる醸成のため、どの児童も良い点が認められ、ほめられる場面を教師が意図的に設定していく必要がある。</p> <p>◆学校全体の教師がすべての学年の児童を育てるという考えをもって教育に当たっていくことが大切である。</p>	B	<p>○職員会議等を通して、各職員の取組を一段と高められればよいと考える。</p>
	3	<p>■西小は、教職員が児童のよい点を認め、ほめるとともに、いけないことは毅然と叱り、一人一人を伸ばすことを念頭に教育にあたっている。</p>	<p>◆教職員が連携して、児童一人一人のよい点を見つけ、ほめて伸ばす教育に取り組む他、自己有用感の醸成と生徒指導・教育相談を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級担任と教科担任、養護教諭の連携 ・複数教員の協力体制による指導の実施 ・学級活動等における称賛場面の設定 	A	<p>○学校全体の教師がすべての学年の児童を育てるという考えをもって教育に当たっていくことが大切である。</p>	A	<p>○学年相互で、協力し合っていることがわかる。</p> <p>○クラスの先生だけでなく、いろいろな先生に声かけしてもらっている。</p> <p>○これからも児童の日常生活、学習態度を観察し、行動をほめていただくことを期待する。</p>

領域					学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	自己評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
II 学習指導・学力向上	4	<p>■西小は、教職員研修を積極的に推進し、教職員の資質を高め、指導力及び業務遂行力の向上を図っている。</p>	<p>◆市委嘱研究の取組を推進するとともに、現職職員研修の充実にも取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間6回の授業研究及び研究協議の実施 ・外部講師を招聘した研修の実施 ・日々の業務に必要な研修の実施 ・グループウェアの記事をとおした自己研鑽 ・初任者研修等に係る示範授業等一人一授業の公開 	B	<p>○英語に係る委嘱研究、初任者研修等の研鑽を通じて、教師力、授業力を向上させる機会をふんだんに得られた。</p> <p>○地域や企業、学校応援団等の協力による授業を実施することでより体験的で魅力的な学習を行えた。</p>	B	<p>○授業を飽きさせない工夫や今流行していること、身近に起きていることなどを話題にするなど、児童の興味関心を引く授業づくりを推進していただきたい。</p> <p>○ICT端末を家に持ち帰り、抵抗なく使用できている。</p> <p>○算数の練習問題などで、ICTの活用が見られた。</p> <p>○調べ学習にも活用が見られた。</p> <p>○休み時間等にALTと児童のふれあいの場を設ける等の取組が行われているが、日常の遊びなど、生活の場において会話を取り入れていけるとよい。</p> <p>○学校図書館を活用している様子がわかる。</p> <p>○アンケートの回答では、職員・児童と保護者の間に、かなりのかい離が見られ、保護者が家庭内における児童の読書する姿を見るチャンスがないのか、または児童が本を借りても、家では読書をしていないのか判断しにくい。</p>
	5	<p>■西小は、教育課程や指導方法を工夫改善し、児童の主体的に学習に取り組む態度を高め、学力の定着に努めている。</p>	<p>◆創意工夫を生かした教育指導の実施、主体的・対話的で深い学びに通じる実践、個別最適な学び・協働的な学び、基礎学力、学ぶための5つの力の育成に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上プランの策定と実行 ・ユニバーサルデザインへの配慮 ・家庭学習習慣、非認知能力の育成 ・自己有用感を得られる場づくり ・認めてほめて伸ばす教育の実践 	B	<p>○ICT端末の活用と持ち帰り、読書活動の推進、家庭学習強化週間等の実施により、主体的に学習する態度の育成に努めている。</p> <p>◆ICT端末の使用頻度が高まるにつれ、情報モラル教育の確かな実践が必要である。</p> <p>◆コンピュータ、英語、読書に係る学校での学びの様子が、家庭にも伝わるように工夫する必要がある。</p>	B	
	6	<p>■西小は、コンピュータを活用する授業を推進し、充実させている。</p>	<p>◆「あげお 学びのイノベーション推進プラン」に基づくICT端末の日常的活用を具体化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校ICT支援員との連携 ・プログラミング教育の着実な実践 ・「chromebook」の校外内での活用 ・「Google Workspace」「まなびポケット」の利用 ・情報モラル教育の充実 	B		B	
	7	<p>■西小は、英語でも、楽しくコミュニケーションを図れる児童が育つように、外国語教育を充実させている。</p>	<p>◆全担任が、ALTとのコミュニケーションを図り、レッスンプランを計画し、授業を進行できるように実践を積む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALTとのコミュニケーションや連携 ・担任が主体となった授業の構成 ・レッスンプランに基づく授業の展開 ・ALTと児童のふれあいの場づくり 	B		B	
	8	<p>■西小は、読書に親しめる児童が育つように読書活動を推進し、充実させている。</p>	<p>◆学校図書館を活用する読書活動を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ ・学校図書館の環境整備 ・図書に関わるイベントの実施と貸出の促進 ・週末読書の推奨 ・アッピースマイル学校図書館支援員、学校応援団（読み聞かせ隊）との連携 	B		B	

領域	自己評価				関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
	自己評価の評価規準	主な方策	自己評価	○学校としての考え ◆課題・改善点			
IV 健康・安全・体力向上	13	<p>■西小は、保健、歯科保健、体づくりなどの健康に関する教育を充実させている。</p>	<p>◆性に関する指導、感染症の防止、むし歯予防、体力向上に関わる児童の意識とスキルを高められるよう指導を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命の安全教育の具体化 ・保健学習 ・歯みがきタイムの実施 ・学校保健委員会の開催 ・学校医等との連携 ・体育朝会、体育授業の工夫 	B	<p>○PTAの協力により、中学年での生命の安全教育講演会を実施できた他、永久歯のむし歯治癒率が100%に到達、長縄などの運動教室の開催も増やすことができた。</p>	B	<p>○性に関する指導は、縦割りにして、しばらく何年か充実されていくことが、効果が上がると思う。保護者の協力も大切になる。</p>
	14	<p>■西小は、生活安全・交通安全・災害安全に係る取組を充実させている。</p>	<p>◆けがや交通事故の防止、防災・防犯に関わる児童の意識とスキルを高め、指導を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全学習 ・安全点検 ・通学路点検 ・避難訓練、防災訓練、消防訓練 ・不審者侵入への対応、訓練 ・心肺蘇生法体験学習 ・交通安全教室 	B	<p>○防災訓練を工夫し、清掃時間中教室外にいるときの避難行動についても体験させることができた。</p> <p>○一斉下校を一部見直し、通学班長会議に切りかえたほか、3年生まで下校班による下校から個別下校に変更した。</p>	B	<p>○日常生活の中で【場】の設定を工夫し、一年に一度は、場の設定を変えて、避難行動をできるようにしてほしい。</p> <p>○安全意識をもつには、事故やけがの恐ろしさも伝えるようにしたい。</p> <p>○最近の自然災害に対する事前の構えとして、「上尾市防災士協議会」による出前授業等を取り入れることも検討されたい。</p>
	15	<p>■西小は、食に関する指導を充実させ、食物アレルギーによる事故防止にも丁寧に対応している。</p>	<p>◆バランスのとれた食事の大切さを理解させ、実践できるようにする指導を充実するとともに、食物アレルギーによる事故防止の取組を徹底する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー対応マニュアルの実践 ・アレルギー対応児童の保護者面談 ・家庭科、食育に係る指導の充実 ・早寝 早起き 朝ご飯の啓発 ・ホームページでの給食情報の提供 	B	<p>○学校栄養職員によるエプロンシアターの実施や給食レシピーの配布など、食に関する指導の充実を図れた。</p> <p>◆必要かつ工夫した教育活動を実施しているが、保護者にも知っていただく工夫をする必要がある。</p>	B	<p>○少食だった子ども栄養指導のおかげもあり、バランスよく食べることができた。</p>

領域	自己評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	自己評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
V 教育環境の整備	16	<p>■西小は、安全・衛生・美化の観点から施設や校舎内外を整頓し、整備を行っている。</p>	<p>◆児童が安心して学べる安全で清潔で潤いのある教育環境の点検と整備に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月例安全点検及び臨時点検、点検結果への対応 ・小破修繕の実施 ・花壇の整備 ・市教育委員会と学校応援団、PTA（保護者）との連携 	B	<p>○施設、設備は老朽化が進んでいるが、優先順位をつけ、予算を有効活用し、整備・修繕に取り組んでいる。</p> <p>○環境業務員(用務員)による清掃や小破修繕の実施により、校内施設が整備されている。</p> <p>◆施設設備の瑕疵箇所を早期に発見し、限られた予算の中で危険のないよう速やかに対応することが必要である。</p>	B	<p>○環境改善と予算については、行政や学校応援団、保護者との連携が引き続き必要である。</p>
	17	<p>■西小は、教室や廊下などに適切な掲示を行い、教育環境を整備している。</p>	<p>◆季節や行事、学習内容・指導内容に合わせた作品の展示や掲示物の作成に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彩りや構成の考慮 ・あるべき所に必要な掲示 ・ユニバーサルデザインの考慮 ・児童作品の適切な取り扱い 	B	<p>○外の掲示板、職員室前の児童の作品、廊下や各教室など季節や行事、学習内容に合わせた掲示物の作成や作品の展示を行うことができた。</p> <p>◆今後もユニバーサルデザインを考慮しながら掲示物の作成や作品の展示を行っていく。</p>	B	<p>○学校を訪問した際、廊下の掲示物など、楽しく見させていただいている。</p>
VI 保護者・地域・関係機関との連携	18	<p>■西小は、学校の方針や取組、児童の様子などが伝わるように、積極的に保護者や地域に情報を提供している。</p>	<p>◆学校の方針や取組、教育活動の様子などが伝わるようにホームページや便り、学校配信メール（さくら連絡網）等をとおして、保護者や地域へ情報を発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新 ・学校便りの充実 ・学校配信メールの活用 	B	<p>○昨年度に引き続き、学校・学年だよりや学校行事の連絡などを保護者に分かりやすく伝えられるよう積極的に学校配信メールや学校ホームページを活用している。</p>	B	
	19	<p>■西小は、コミュニティ・スクールとして学校応援団（PTA・保護者や地域住民関係団体等）の協力を生かして、学校運営や教育活動を充実させている。</p>	<p>◆保護者・地域の協力を仰ぎながら、児童の登下校の安全確保や学習活動の充実、教育環境の整備に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会での熟議 ・PTA（おやじの会含む）、学校応援団等との連携 ・出前授業、ゲストティーチャーの活用 	B	<p>○旗振り活動をはじめ、PTAによる学校応援活動、地域の方の登下校時の見守り活動、読み聞かせ隊の皆様による朝の読み聞かせのほか、新たに着衣泳や鴨川の調査学習、生命の安全教育など、学校応援団の協力による教育活動の充実を図ることができた。</p> <p>◆学校応援団としてのチームや人員の確保を図る必要がある。</p>	B	<p>○PTA（保護者活動）のあり方とのバランスについて、児童に不利益のないように検討したい。</p> <p>○学校運営協議会を含め、職員はもとより保護者に対しても、存在や活動が見える対応が求められる。</p>
	20	<p>■西小は、幼稚園及び保育所（園）並びに中学校、地域との連携を図る教育活動を推進している。</p>	<p>◆幼保小連携、小中一貫教育の推進など、関係学校等と一体となった教育活動の推進に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒との交流 ・授業見学、合同研修等小中教職員間の交流 ・中学校の定期考査にあわせた家庭学習強化週間の実施 	B	<p>◆幼・保・中学校との連携を一層充実させ、一貫教育を推進していく必要がある。</p>	B	